

## 第4章 プロジェクトの評価

## 第4章 プロジェクトの評価

### 4 - 1 プロジェクトの前提条件

#### 4 - 1 - 1 事業実施のための前提条件

- (1) 施設建設に必要な土地が確保され、建設の許認可が取得される。
- (2) 日本側工事着工前に既存施設・樹木の解体撤去工事及び整地が行われる。
- (3) VATをアルバイ州が負担することで、プロジェクトにかかる課税を免除する。

#### 4 - 1 - 2 プロジェクト全体計画達成のための前提条件・外部条件

本プロジェクトの効果を発現・持続するため必要であるが、本プロジェクトでは制御が可能でない前提条件及び外部条件は以下の通り。

- (1) 「国家防災行動計画 2009-2019」及び「アルバイ州防災統合計画 2009-2013」の方針及び実施に変更がない。
- (2) 避難所運営に関わる各レベルの自治体、学校、及び災害調整委員会が災害時に正常に機能する。
- (3) 通常時の学校として施設運営・維持管理が円滑に行われる。

### 4 - 2 プロジェクトの評価

#### 4 - 2 - 1 妥当性

本プロジェクトは、以下の理由により我が国の無償資金協力による協力対象事業の実施が妥当であると判断される。

- (1) 本プロジェクトの裨益対象は、アルバイ州の学校教職員、児童・生徒、及び避難対象者などの一般国民である。
- (2) 本プロジェクトのプロジェクト目標は、対象サイトにおける避難所の整備により周辺住民の災害時の避難環境を改善すること目的としており、我が国の無償資金協力の目的である BHN 及び民生の安定に合致する。
- (3) 本プロジェクト計画対象校は、フィリピン国側独自の資金と人材、技術で運営・維持管理を行うことができ、高度な技術を必要としない。
- (4) 本プロジェクトの内容は、フィリピン国の「国家防災行動計画 2009-2019」及びアルバイ州の「アルバイ州防災統合計画 2009-2013」の目標達成に資する計画である。
- (5) 本プロジェクト実施には収益性を伴わない。
- (6) プロジェクト実施に伴う環境社会面での負の影響はほとんど無い。

- (7) 我が国の無償資金協力の制度により、特段の困難なくプロジェクトの実施が可能である。
- (8) 我が国は、自然・災害環境が類似するフィリピン国に対し、1972年より実施している防災分野の無償資金協力に加え、災害復興支援及び防災計画に関する開発調査・技術協力プロジェクト等を通じて恒常的な支援を行っており、防災分野において優位性がある。

#### 4 - 2 - 2 有効性

本プロジェクトの実施により期待される効果は以下のとおり。

##### (1) 定量的効果

表 4-1 定量的効果

指標名	基準値 (2010年)	目標値 (2013年)
避難所の収容可能人数	4,040人	7,200人
避難時の一部屋当たりの過密度 (平均)	94人	53人
トイレ1個当たりの避難者数 (平均)	55人	26人
標準サイズを満たし、避難所として使用可能な教室数	101室	180室

##### (2) 定性的効果

- 1) 避難所専用設備を備えた避難所が建設されることにより、避難対象地域の住民の防災に対する意識が向上し、周辺住民が避難所の利用に積極的になる。
- 2) トイレ、シャワー室、洗濯場、及び手洗い場が十分に整備されることにより、避難所の衛生環境が改善される。
- 3) 対象校の学校災害調整委員会のメンバーを始めとする教職員、児童、及び学生の防災に対する意識の向上につながる。
- 4) 学校施設の充実により学校への入学・定着が促進され、地元の教育水準が底上げされる。